

## 校長先生の日記⑬ 第14回 卒業証書授与式が行われました



信濃小中学校では、3月18日に卒業証書授与式が行われました。

鈴木文雄信濃町町長様、信濃町教育委員のみなさまのご臨席を賜り、1年生から8年生が見守る中、卒業生48名が9年間の義務教育を終え、この学び舎を巣立っていきました。

春を感じるあたたかな日差しの降り注ぐ中、ひととき大きく、黒姫山が輝く卒業式の日となりました。友や先生の別れは寂しいけれど、新しい世界に羽ばたく期待に胸をときめかせ、みな笑顔で卒業していってくれました。



卒業証書を一人一人に手渡す際には、しっかりと目を合わせ、笑顔を見せてくれたり、「こくり」と頷いてくれたりとそれぞれが精一杯最後の思いを込めてくれました。そのたびに一人一人との思い出がよみがえってきて、目頭が熱くなりました。練習では少し小さめだった返事は、最後尾の保護者席にも届くような力強いものになりました。それも生徒一人一人の最後の表現だったのだと思います。式辞で台の前に立って改めて子どもたちの顔を見ると、どうにも涙をこらえることができませんでした。それほど、彼らは頼もしく、学校を盛り上げ、明るくしてくれる確かな存在だったので。学校を共につくってきた頼りになる存在がいなくなってしまう、寂しさと心細さをいつも卒業式で味わいます。でもまた、この卒業生の姿を見て、新しい9年生が育つのが信濃小中学校の伝統の強みです。最後の最後まで、立派な姿を見せてくれた9年生に心から感謝です。



答辞を読んだ生徒会長は、最後に感極まってしまいましたが、保護者への思い、友への思い、先生方への思いを力強く語ってくれました。



最後の合唱「旅立ちの日に」は、歌が大好きな9年生らしい合唱となりました。  
静かに去っていく9年生を最後の最後まで全校がしっかり見送ることができました。

## 卒業生の未来に光あれ！！

ご来賓のみなさまからは、大変心温まる式だったとおほめの言葉をいただきました。これもまた信濃小中の伝統です。

その後行われた離任式では、15名の先生方とお別れすることとなりました。

別れは本当に悲しいです。そんな別れを感じることも大切なことだと思います。でもまた、4月になって新しい出会いがあって、素敵な新学期が始まる。そんな繰り返しをしながら、子どもたちはぐんぐん育っていくのだと思います。

私たちもまた、新しい気持ちで、4月を迎えたいと思います。

1年間本当に、ありがとうございました。

### 式 辞

凛とした空気に、雪を湛えた黒姫山がみなさんの門出を祝うかのようにひととき大きく、美しく輝いています。

本日ここに、信濃町町長鈴木文雄様をはじめ多くのご来賓のみなさまにご臨席を賜り、令和7年度卒業証書授与式を挙行できますこと、深く感謝申し上げます。  
九年生のみなさん、ご卒業おめでとうございませ

す。みなさんと修学旅行に行つて年甲斐もなく、ギヤルポーズで写真を撮つたり、バスの中でひたすらビンゴをやつたりしたのがまだついこの間のように思います。

みなさんの魅力は何といつても持ち前の人なつことと明るさです。素直で感情表現が豊か、誰にも笑顔で分け隔てなく接することができるみなさんのことを、下級生はもちろん、先生方もみな心から慕い愛していました。そういうリーダーがいる学校は、まちがいない学校になります。

本校のこの一年間は、まさにみなさんのおかげで明るく、元気で、みんなが明日もまた来たくなる学校となりました。それはまたみなさんの提案によつて実現した信濃小中学校の大きな学校改革のおかげでもあります。

みなさんからの「もっと先生方と真剣に学びたい」「もっとゆとりをもつて友だちのことを考えられるようになりたい」「自分たちのやりたいことをやる時間がほしい」という切なる願いは、今年の日課の変

更、朝学習の開始、休み時間の延長、クラブ活動の新設などの実現につながりました。みなさんの声をもとに学校をつくつていく学校づくりは、私たち教師にとつて、これからの学校づくりはどうあるべきかを問い直す大切な機会となりました。これからは、これを信濃小中学校の学校づくりの伝統としていきたいと思ひます。

さて、今年はいよいよ、コルティナオリンピックが開催され、多くの日本選手が会場へ活躍しました。みなさんはあのオリンピックでの選手の活躍を見て、まさか自分にはあんなふうにはなれないなと思つてはいませんか？

先日読んだ「15歳からの人生戦略」という本の中に、一つのこの「プロ」になるために必要を時間を調べたマルコム・グラッドウエルというカナダ人のジャーナリストが紹介されていきました。彼が書いた

「天才！成功する人々の法則」という本によると、一流のミュージシャンやアスリート、技術者たちは専門性を高めるために一万時間を練習や訓練に費やすのだそうです。そこで筆者の工藤雄一さんは、一万時間はどのくらいの長さか計算してみたところ、一日3時間の練習や訓練を毎日続けると約10年となるということが分かったそうです。みなさんの10年後は何歳ですか？そうです24歳または25歳です。みなさんが「よし！やるか！」と決意して明日から動きだせば、10年後

にみなさんは全くの別人となることができるといふわけです。10年後丸山希さんのようなジャンプ鋼メダリストに、ミセスグリーンアップルの藤澤涼香さんのようなミュージシャンに、なれる可能性が

あるということですが、どうですか？、なんだかわくわくしてきませんか？これは、9年生だけのことはありません。1年生から8年生のみなさんにも当てはまることです。残念なことにここにいる大人にはあきらめなくてはならない可能性がたくさんあるのですが、みなさんにはないのです。しかし、

そのためには、自分で決めて自分で考えて、自分で行動しなければなりません。9年生にとっては4月からは大きなチャンスです。自分の決めた道路で自分のやりたい勉強や活動が始まります。一日3時間×10年間の法則を使って、自分の未来をぜひ力づくよく切り開いてみてください。みなさんの活躍を心から楽しみにしています。

最後に保護者のみなさま、本日はお子様のご卒業おめでとうございます。また、9年間という長きにわたり信濃小中学校の教育をお支えいただき、心から感謝申し上げます。これからも、信濃小中学校は、保護者、地域のみなさまとともに、未来ある子どもたちのために、ますます発展していく所存です。これからも、信濃小中学校を応援していただきますようお願いを申し上げます。

式辞といたします。

卒業生のみなさんの未来に光あれ！

令和八年 三月 一八日

信濃町立信濃小中学校長 佐藤 利恵